

ひがし

通算第 105 号
2025.2.15 No.21

佐世保市での

フィールドワーク

2月8日に地区人啓の役員で佐世保市の戦争遺構についてのフィールドワークに行ってきた。

時々雪が舞い、寒さに震えながらのフィールドワークとなりました。

むきゅうどう

無窮洞

無窮洞は第2次世界大戦中に、旧宮村国民学校の防空壕として掘られました。当時の校長の発案で昭和18年から昭和20年の8月15日の終

戦の日まで掘り続けられました。掘ったのは、先生に指導された高等部(現在の中学)の生徒たちでした。男子がツルハシなどで掘り、女子が整形を、下級生が運び出しを担当しました。

では、なぜ校長先生はここにそんな防空壕を作ろうと思ったのでしょうか。ガイドの方の話によるとハウステンボスがあったところ(無窮洞はハウステンボスのすぐそば)に新兵を教育する施設があり、そこで一万くらいの新兵が訓練をしていたので、空襲に合うかもしれないという危機感が校長先生にはあったのではということでした。またこの防空壕はかなり大きくて中で授業ができるように

教壇を備えていて、書類室や台所、便所、避難道も造られていました。入ってみて20人ぐらいはゆっくり授業が受けられるような気がしました。

子どもたちは、戦争のために勉強もせずに2年近くも穴掘りさせられていたかと思うと当時の国家総動員法や、「欲しがりません。勝つまでは」などの言葉がいかに浸透していたかを感じました。

